

中から何かを作り出して、それに対して援助をもらう、という姿勢が重要である、と力説していた。

最後にデータの問題に触れる。特に、最近 WMO で議論されている気象データの有料化の方向に対し JSC でも強い懸念が表明された。しかし、議論をしてみても気が付くことであるが、気象データの全世界的な交換、無料による開放こそが特殊で、一般的に全てのデータは塀の内なのである。

とにかく、長い一週間であった。やはり、体力負けを実感する。朝は早く、時差と戦いながら英語を使う

苦しさ、coffee break のなかでも適当な相手を見つけ探りを入れなければならないし、夜は夜で社交がある。JSC は science を back にした外交戦というところもあり、「日本を代表して世界に覇を唱えよう」と考えて行くと、なかなかつらいところがある。日本の状況が良く理解出来るだけに、一方的に「相手が悪い」とも言えず、又、「無視される」のもしゃくにさわる、という気になる。「今、我々に年間5億程度の金が自由になるのなら、国際的舞台で十分に引き廻せるのになあ」との感じを禁じ得なかった。

月例会「長期予報と大気大循環」の講演募集のお知らせ

日本の夏は一昨年の大冷夏、昨年の大暑夏と変動の大きい状態が続きました。それらをもたらした大気大循環のメカニズムを解明する上で重要といわれ、近年フィールドワーク、解析、数値実験と精力的に研究が進められている「陸面過程と大気大循環」をメインテーマとして、表記月例会を下記の要領で開催します。講演を希望される方は下記の要領で御応募下さい。また、メインテーマ以外でも大気大循環に関係するものであれば歓迎します。なお、1講演あたりの講演時間は30分程度を予定しています。また、講演していただいた方には原則として「グロースペッター」に原稿をお願いしますのであらかじめご了承願います。

記

日時 1995年9月22日(金) 13時～17時

場所 気象庁第一会議室(5F)

メインテーマ 「陸面過程と大気大循環」

申し込み方法 講演者氏名、所属、講演題目、講演要旨(400字以内)を添えて申し込んで下さい。

申込先 〒100 東京都千代田区大手町1-3-4

気象庁長期予報課

LF グループ事務局(高野清治)

TEL 03-3212-8341

FAX 03-3201-0682

E-mail lfd-diag@hq.kishou.go.jp

申し込み締切り 1995年7月31日(月)